

第1学年 「10よりおおきいかずをかぞえよう(7時間)」評価資料

単元目標	
知識及び技能	10より大きく20までのものの数を数えたり、数字を用いて表したりすることができる。 「一の位」、「十の位」の用語と意味を理解し、2位数の構成を理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	10のまとまりを作って数えることを通して、十を単位とした数の仕組みとその表現のよさを見出す力を養う。
学びに向かう力、人間性等	身の回りで用いられている数を数えたり比べたり、数を用いて表そうとする態度を養う。
中心となる数学的な見方・考え方	
☆ 10のまとまりに着目して、数の比べた方や数え方を考える。 ☆ 「10とあといくつ」という数の見方や計算の意味に着目して、(十何) ± (1位数) の計算のしかたを図や式に整理して考える。	
重点とする評価の観点及び指導の具体	
重点とする評価の観点(1/7)	10のまとまりを作ることによさに気づき、ブロックなどを用いて、整理して考えている。
<b>【子供の表現例】</b> ○ 1学期にブロックを使って数えたから、ブロックをおいてみよう。 ○ 印をつけながら数えてみよう。10になったら <u>困</u> んでみよう。 ○ 10のまとまりと、ばらが3あるから13だよ。	<b>【指導の手立て】</b> ○ 10のまとまりとばらに並べて整理すると分かりやすいことに気付かせるためにブロックを用いて考えさせるようにする。 ○ 10こずつまとめるよさに気付かせるために、「10個ずつ線で囲んだときと囲まなかった時を比べてみましょう。どちらが見やすいかな。」と発問する。
重点とする評価の観点(7/7)	「10といくつ」の数の見方から、(十何) ± (1位数) の計算のしかたを図や式に整理して考えている。
<b>【子供の表現例】</b> ○ ブロックを使えば、答えが分かりそうだな。 ○ 12+3の12は10のまとまりが1個とばらが2個になるなあ。ばらの2と3をたせば、5。10と5で答えは15だ。 $1 \quad \underline{2} + \underline{3} = 1 \quad \underline{5}$ ○ 15-2は、10のまとまりはそのまま、ばらの5から2をひいて3だから答えは13だよ。 $1 \quad \underline{5} - \underline{2} = 1 \quad \underline{3}$	<b>【指導の手立て】</b> ○ ブロック操作をさせながら考えさせる。その際、これまでの学習を意識させるために「10このまとまりつくってブロックを並べてみよう」と助言する。 ○ ブロックを使わずに、計算の仕方考える際、式とブロックを関連付けて考えさせる。 ○ 式に表す際は、「10とあといくつ」という数の見方をしてきたことを想起させ、一位数どうしを足せば簡単に計算できることに気付かせる。
重点とする評価の観点(/)	
<b>【子供の表現例】</b>	<b>【指導の手立て】</b>
反省	